

## よさを見つける目が自信をつくる

校長 小林 隆裕



アメリカの学校で理科の授業中、実験に使っていたマウスが逃げ、どこに隠れたのか分からなくなってしまうことがありました。担任の女の先生は、クラスの子どもたちに探させたのですが見つかりません。そこで全員を席に着かせて、自信たっぷりにこう言いました。  
「これだけ探しても見つからないのなら、あとはモーリス君にお願いしましょう」

途端に、教室内からざわめきが起こりました。一人が「モーリスには無理です」と言いました。実はモーリス君は目が不自由なのです。先生はこう答えました。

「なるほど、確かに目が不自由です。だからモーリス君には無理だとみんなは思うかもしれませんが、でも先生は知っています。モーリス君は目が不自由でも、神様から素晴らしい能力をもらっています。聴力です。それを生かせば、必ずマウスを見つけてくれると先生は信じています。モーリス君、お願いできますか」

そして、モーリス君は期待に応えてマウスを探し出しました。そして、その日の日記にこう書き残しました。

「あのとき、僕は生まれ変わった。先生は僕の耳を神様がくれた耳と言ってほめてくれた。僕はそれまで目が不自由なことを心の中で重荷に感じていた。でも先生がほめてくれたことで、僕には大きな自信がついた」

このマウス事件から十数年。神様がくれた能力を生かして音楽の道に進んだステヴランド・ハーダウェイ・モーリスはシンガーソングライターとして鮮烈なデビューを果たします。スティービー・ワンダーという芸名で。



人は「自分に自信がもてたとき」に大きく変わることができます。何に価値を見出すか、角度を変えて見ることで、良さが見えて自信が芽生えることもあります。

先月の藤塚浜大運動会では、練習・準備から本番、片付けの流れの中で、子どもたちの頑張りがたくさん見られました。おうちでも「頑張ったね」とたくさんほめていただいたことと思いますし、自分では気づかなかった自身の良さに気付かされた子どもたちもいたことでしょう。人は誰でも認められたいし、自信となるような誰かの後押しが欲しいのです。子どもも大人もきっとそうです。

ちょっとしたことや何でもないようなこと、自分では当たり前だと思っていたことが、自信のもとになる、ということがあるかもしれません。子どもたちも、そして私たち大人も、よさを見つけて相手に伝える姿勢が大切なのだと思います。おうちの方からも、ぜひ「自分から見たその子のよさ」を伝えてください。「見てもらっている、認めてもらっている」という実感は、必ず子どもたちの自信になります。



6月15日は藤塚小学校の創立記念日です。今年度、149年目を迎えます。